

第 10 回県民意識調査報告書
くらしについてのアンケート結果
(平成 30 年 8 月調査)

【 抜 粋 版 】



平成 31 年 3 月
沖縄県企画部

<目次>

I. 概要	
1. 調査の概要	1
2. 調査結果の要約	9
II. 本調査の結果	
第1章 県民の自己像	29
1. 自己及び家族に対する意識(問1)	29
2. 自己及び社会に対する意識(問1)	51
3. 地域とのつながり(問2)	63
第2章 県民生活の重要度・充足度	71
1. 生活の各側面に対する重要度(問3)	71
2. 生活の各側面に対する充足度(問4)	79
3. 生活の各側面に対する重要度・充足度の関係から見た県民ニーズ(問3・4)	88
第3章 生活領域の政策課題	106
1. 生活価値観の選択(問5)	106
2. 生活状態(くらしむき)の意識・変化・見通し(問8)	123
3. 生活状態(くらしむき)の達成度と希望(問9)	132
第4章 日常の生活空間に対する認識	134
1. 居住地に対する希望(問6)	134
2. 県(民)の長所・短所(問7)	142
3. 米軍基地に関する行政への要望(問12)	166
第5章 地域経済の認識	175
1. 産業振興の優先度(問10)	175
2. 重点施策の優先度(問11)	179
第6章 子どもの貧困に対する取組	187
1. 子どもの貧困に対する取組(問13)	187
III. 離島住民特別調査の結果	
第1章 離島住民の自己像	211
1. 自己及び家族に対する意識(問1)	211
2. 自己及び社会に対する意識(問1)	244
第2章 離島での生活に対する認識	256
1. 生活状態(くらしむき)の意識・変化・見通し(問4)	256
2. 居住地に対する希望(問3)	268
3. 島(民)の長所・短所(問2)	276
第3章 離島における産業振興	298
1. 産業振興の優先度(問6)	298
第4章 離島振興施策	302

1. 離島振興施策に対する評価・優先度(問 5)	302
2. 人口増加対策に対する認識(問 7)	341
IV. 資料編	
1. 県民意識調査 県民生活の重要度に係る質問の対応表	357
2. 県民意識調査 県民生活の満足度に係る質問の対応表	366
3. 本調査票及び単純集計結果	375
4. 離島住民特別調査票及び単純集計結果	406

1. 調査の概要

(1) 調査目的

社会の構造的変化の中で多様化する県民の意識や、価値観、ニーズの変化及び行政に対する要望等について把握して合理的な分析を行い、「沖縄21世紀ビジョン(平成22年3月)」で掲げた将来像の実現及び「沖縄21世紀ビジョン基本計画(平成24年5月)」(以下、「基本計画」という。)の推進等に役立て、今後の県政運営に広く活用することを目的とする。

(2) 調査の種類と調査項目

今回は、昭和54年以降、概ね3～5年ごとに実施してきた「県民意識調査(第10回)」(以下、「本調査」という。)に加え、離島のニーズ把握のための「離島住民特別調査」(以下、「離島調査」という。)の2種類の調査を実施した。

本調査は継続調査として過去調査との時系列比較が重要であることから、前回(第9回)調査の調査項目に準拠した調査項目とした。ただし、毎回、その時々々の社会事情等を考慮した特定テーマ質問を設けており、今回は「子どもの貧困」に関する質問を設定した。

離島調査については、本調査との比較を目的に本調査に準拠した調査項目を設定するとともに、離島振興対策等の離島特有の課題等に関する質問を設定した。

【調査項目(本調査・離島調査)】

本調査	離島調査
①基本属性(年齢、性別、職業など)	①基本属性(年齢、性別、職業など) *
②県民の自己像【問1】	②島民の自己像【問1】 *
③地域とのつながり【問2】	③島(民)の長所・短所【問2】 *
④生活各面の重要度【問3】	④居留意向【問3】 *
⑤生活各面の充足度(満足度)【問4】	⑤生活状態の意識、変化、今後の見通し【問4】 *
⑥県民の価値観【問5】	⑥離島振興施策に対する評価・優先度【問5】
⑦居留意向【問6】	⑦産業の振興度【問6】 *
⑧県(民)の長所・短所【問7】	⑧離島の人口増加対策【問7】
⑨生活状態の意識、変化、今後の見通し【問8】	⑨離島の将来に向けて必要だと思うこと【問8】
⑩生活状態の達成度と希望【問9】	
⑪産業の振興度【問10】	
⑫重点施策【問11】	
⑬米軍基地への対応【問12】	
⑭子どもの貧困【問13】	

※離島調査の*印は本調査との共通項目を示す

(3) 調査設計

【調査設計（本調査・離島調査）】

	本調査	離島調査
母集団	県内に居住する満15歳以上満75歳未満の男女	県内の有人離島(沖縄本島、宮古島、石垣島を除く)に居住する満15歳以上満75歳未満の男女
調査地点及び標本数	200地点 2,000人 (注1)	50地点 500人 (注2)
抽出方法	層化二段無作為抽出法	本調査と同じ
調査方法	留置法(調査票の配布及び回収を調査員が直接個別訪問して行う)	本調査と同じ
調査期間	平成30年7月30日～9月17日	本調査と同じ
有効回収数(率)	1,374人(68.7%)	371人(74.2%)
調査実施及び分析委託期間	株式会社サーベイリサーチセンター	

(注1) 沖縄県の市町村を北部、中部、那覇市、南部、宮古、八重山の6地域に分類し、原則、地域別に2,000標本を人口規模に応じて比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口の少ない宮古地域、八重山地域については、他の地域に比べ2倍の標本数を割り当てるウェイト付きサンプリング及び集計を行った。

(注2) 有人離島(沖縄本島、宮古島、石垣島を除く)のうち、平成27年国勢調査人口が50人以上の島を対象とし、人口規模に応じて標本数を比例配分した。調査対象の離島は下表のとおり。

【本調査の対象】

地域	自治体	地域	自治体	地域	自治体
北部	名護市	中部	宜野湾市	南部	糸満市
	国頭村		浦添市		豊見城市
	大宜味村		沖縄市		南城市
	東村		うるま市		与那原町
	今帰仁村		読谷村		南風原町
	本部町		嘉手納町		八重瀬町
	恩納村		北谷町		渡嘉敷村
	宜野座村		北中城村		座間味村
	金武町		中城村		粟国村
	伊平屋村		西原町		渡名喜村
	伊是名村				南大東村
	伊江村				北大東村
	石垣市				久米島町
八重山	竹富町	宮古	宮古島市		
	与那国町		多良間村		

【離島調査の対象】

地域	自治体	調査対象の離島	調査対象外の離島 ※H27 国勢調査人口 50 人未満
北部	本部町		水納島
	伊江村	伊江島	
	伊平屋村	伊平屋島、野甫島	
	伊是名村	伊是名島	
中部	うるま市	津堅島	
南部	南城市	久高島	
	渡嘉敷村	渡嘉敷島	
	座間味村	座間味島、阿嘉島、慶留間島	
	粟国村	粟国島	
	渡名喜村	渡名喜島	
	南大東村	南大東島	
	北大東村	北大東島	
久米島町	久米島	奥武島	
宮古 (宮古島除く)	宮古島市	池間島、来間島、伊良部島、下地島	大神島
	多良間村	多良間島	水納島
八重山 (石垣島除く)	竹富町	竹富島、西表島、鳩間島、小浜島、黒島、波照間島	由布島、新城島(上地、下地)、嘉弥真島
	与那国町	与那国島	

【過去における県民意識調査の実施状況】

○第1回調査 調査期間:昭和 54 年 12 月 20 日～12 月 30 日 標本数:5,000 人(離島特別調査 500 人)
○第2回調査 調査期間:昭和 59 年1月 10 日～1月 20 日 標本数:3,000 人
○第3回調査 調査期間:平成2年1月 10 日～1月 20 日 標本数:3,000 人(離島特別調査 300 人)
○第4回調査 調査期間:平成7年1月 10 日～2月5日 標本数:2,000 人
○第5回調査 調査期間:平成 11 年 11 月1日～11 月 30 日 標本数:2,000 人
○第6回調査 調査期間:平成 16 年 10 月1日～10 月 31 日 標本数:2,000 人
○第7回調査 調査期間:平成 21 年 10 月 16 日～11 月 15 日 標本数:2,000 人
○第8回調査 調査期間:平成 24 年 10 月6日～11 月5日 標本数:2,000 人
○第9回調査 調査期間:平成 27 年8月 14 日～9月 23 日 標本数:2,000 人

※第1回から第7回調査までは「県民選好度調査」として実施し、第8回からは「県民意識調査」とその名称を改めて実施した。

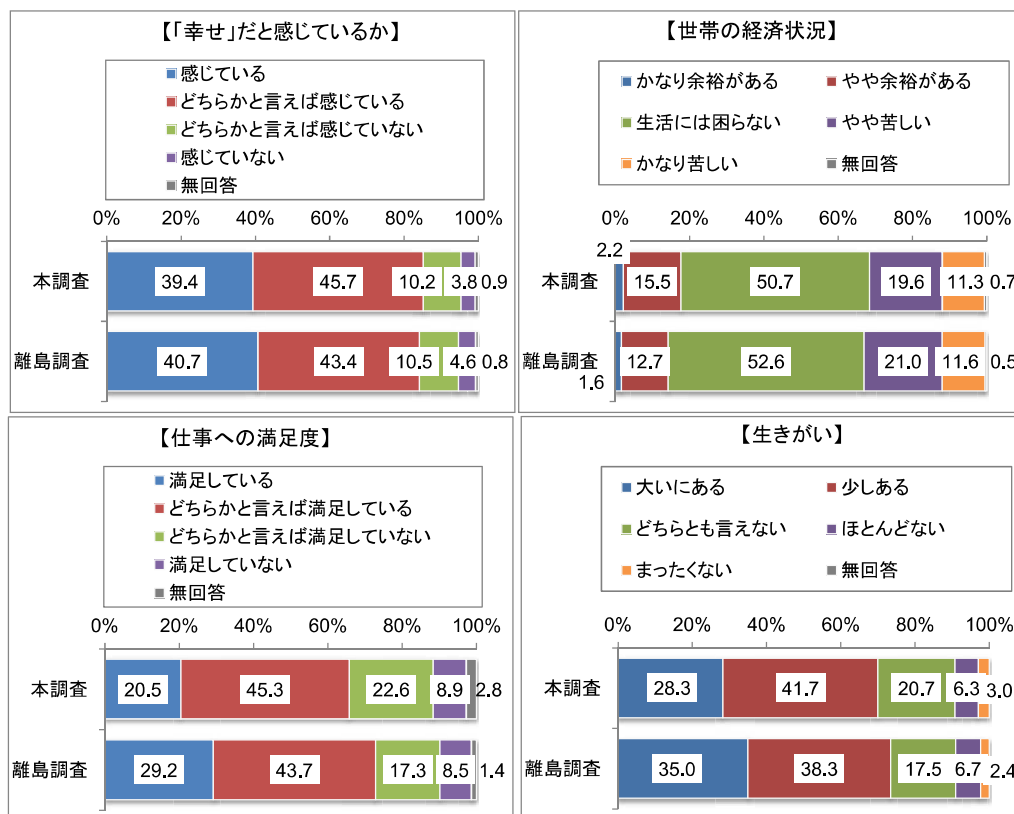
2. 調査結果の要約

(1) 県民の自己像【本調査第1章】【離島調査第1章】

①「幸せ感」や生活の状況など

- 『幸せ感』については、平成24・27年度調査(以下、「過去2回の調査」という。)と同様に、県民全体の8割強が「幸せ」だと感じており、離島住民も同様である。『幸せを感じる時』として過半数の人が家族や仲間と一緒にいるときと回答している。【図表I-1、本調査35頁、離島調査220頁】
- 『世帯の経済状況』については、県民全体・離島住民ともに、5割の人が生活には困らない程度で状況であり、余裕がある人をあわせると、経済的に安定した生活を送ることができている人が7割弱を占めている。経済的に安定した生活を送ることができている人の割合は過去2回の調査に比べてやや上昇している。【図表I-1、本調査39頁、離島調査226頁】
- 『仕事への満足度』についても、働いている人の6割強が現在の仕事に満足しており、特に離島住民では7割超と高い。【図表I-1、本調査41頁、離島調査229頁】
- 『健康状態』については、県民全体・離島住民ともに、8割強の人が「健康」と回答している。【本調査45頁、離島調査235頁】
- 『生きがい』についても、県民全体・離島住民ともに、7割の人が「生きがい」を持っている。特に離島住民では生きがいが「大いにある」の割合が3割超と県民全体に比べて高い。【図表I-1、本調査49頁、離島調査241頁】

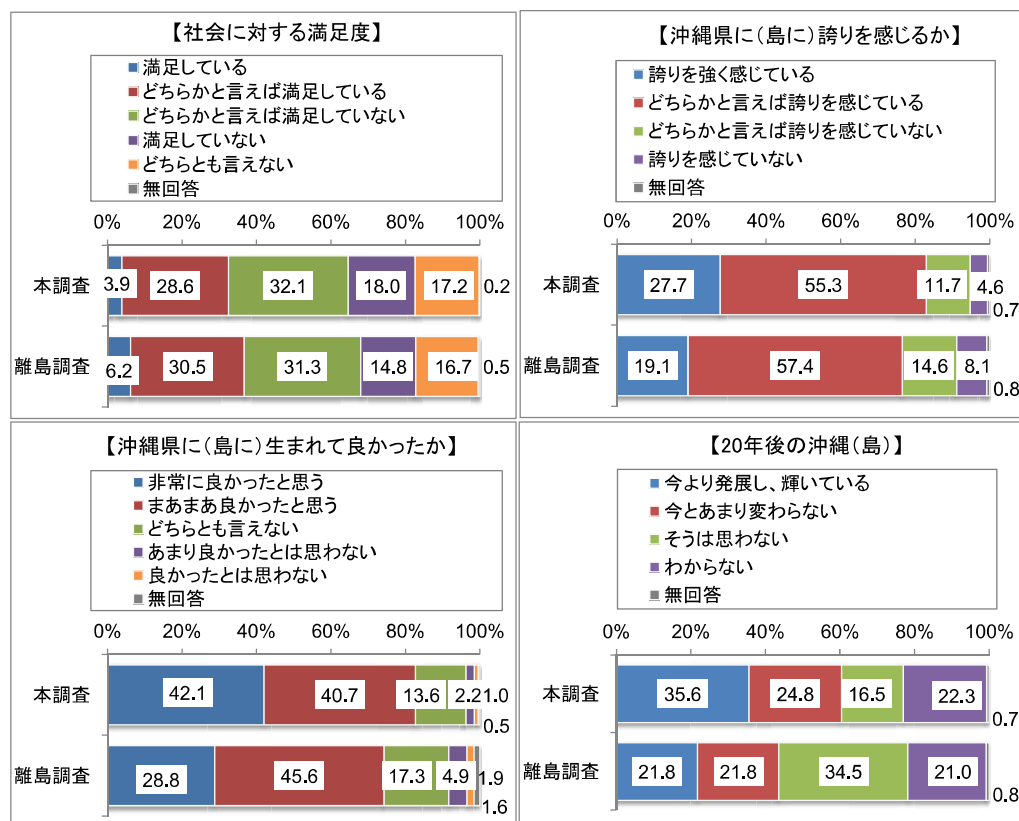
図表I-1 「幸せ感」や生活の状況など（本調査・離島調査比較）

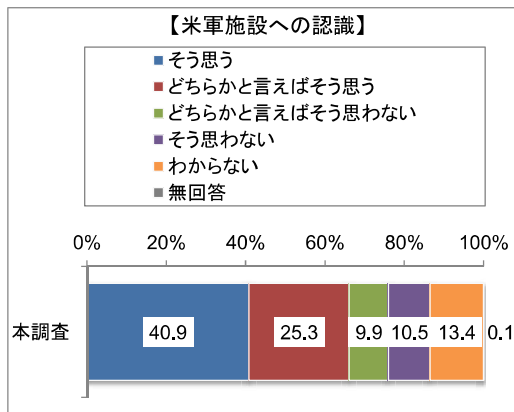


② 社会に対する意識など

- 『社会に対する満足度』については、県民全体・離島住民ともに「どちらかといえば満足していない」が3割を占めて最も割合が高く、これに「満足していない」を合わせた不満層が5割を占め、満足層は3割強に留まっている。ただし、過去2回の調査と比較すると、不満層は減少し、満足層や「どちらとも言えない」と態度を保留する人の割合が高まっている。【図表 I-2、本調査 51 頁、離島調査 244 頁】
- 『県民間の経済格差』については、過去2回の調査と同様に、10年前に比べて県民間の経済格差が「縮まった」と評価する人は1割弱に留まり、「変わらない」との回答が3割強と最も割合が高い。【本調査 53 頁】
- 『沖縄県に（島に）誇りを感じるか』『沖縄県に（島に）生まれて良かったか』については、過去2回の調査と同様、県民の8割強が沖縄県を誇りに思い、生まれて良かったと思っている。離島住民については、住んでいる島に対することとして質問したが、県民全体に比べて「（島に）誇りを強く感じている」や「（島に生まれて）非常に良かったと思う」の割合が低く、島のことを誇りに思い、生まれて良かったと感じる人は7割台に留まっている。【図表 I-2、本調査 55 頁、離島調査 250 頁】
- 『20年後の沖縄（島）』については、県民全体では「今より発展し、輝いている」と考える人の割合が3割強と最も高いが、離島住民では20年後の島について「そうは思わない」と考える人の割合が3割強で最も高く、県民全体と離島住民で意識差が大きい。【図表 I-2、本調査 31 頁、離島調査 214 頁】
- 『米軍施設への認識』については、沖縄県に全国の米軍専用施設の約70%が存在していることについて差別的な状況だと強く思う人（「そう思う」）の割合が4割を占め、「どちらかといえばそう思う」をあわせると7割弱の人が差別的な状況だと捉えている。年代別では、10代から40代までで強く「そう思う」の割合が相対的に低く、50代以上で高い傾向にある。【本調査 59 頁】

図表 I-2 社会に対する意識など（本調査・離島調査比較）



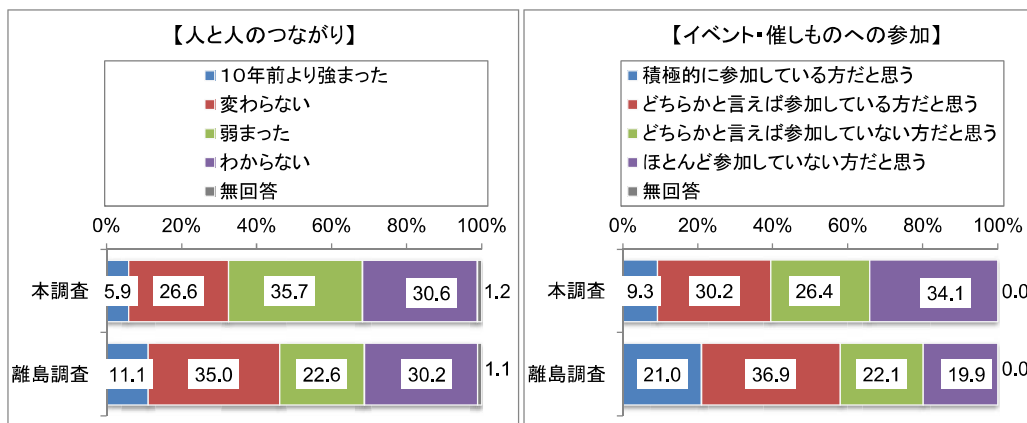


※【米軍施設への認識】離島調査は対象外

③ 人や地域とのつながり

- 『人と人のつながり』については、県民全体では10年前に比べてつながりが「弱まった」と感じている人が3割強と最も割合が高く、「強まった」との回答は1割に満たない。ただし、離島住民では「変わらない」「強まった」の割合が県民全体より高く、つながりが薄れていないと感じている人が比較的多いといえる。【図表 I-3、本調査 29 頁、離島調査 211 頁】
- エイサーや盆踊り、親睦モアイ等の『イベント・催しものへの参加』については、県民全体では「ほとんど参加していない方だと思う」が3割強と最も割合が高く、「どちらかといえば参加していない方だと思う」を合わせると不参加層が6割を占める。一方、離島住民では「どちらかといえば参加している方だと思う」が4割弱を占めて最も割合が高く、「積極的に参加している方だと思う」を合わせると参加層が6割弱を占めており、県民全体・離島住民で参加状況に大きな差が見られた。【図表 I-3、本調査 61 頁、離島調査 253 頁】
- 本調査における『近隣との交流の程度』の回答結果においても、近隣との交流がない人が6割を超え、『地域活動への参加の程度』でも不参加層が7割強と、県民全体では近隣・地域での交流が希薄となっている。【本調査 63 頁、65 頁】
- 一方、本調査における今後の『地域の交流のあり方に対する希望』については、「日常的な交流」「挨拶程度の交流」「困ったときに助け合える」の順で希望率が高いが、過去2回の調査と比較すると、「困ったときに助け合える」の割合が減り、「挨拶程度の交流」の希望率が上昇している。【本調査 69 頁】

図表 I-3 人や地域とのつながり（本調査・離島調査比較）



(2) 県民生活の重要度・充足度

① 重要度

- 生活の各側面(75項目)に対する重要度を6段階評価でたずねたところ、「非常に重要である」との回答比率が高い項目は、「(44)安心して家庭で水が使える」(80.1%)、「(35)犯罪がない安心なくらしの確保」(76.3%)、「(30)救急患者が適切な治療を受けられる」(75.5%)、「(25)老後に不安のない年金が得られる」(74.5%)、「(29)良質な医療を受けられる」(71.9%)、「(32)費用の心配なく、医療を受けられる」(70.7%)の順となっている。過去2回の調査と上位項目を比較してみると、上位6位までは順位の入れ替わりはあるものの概ね同様の項目があがっている。【図表I-4、本調査71頁】
- 「非常に重要である」の回答比率について、前々回(平成24年度)調査からの増減をみてみると、「(43)快適にインターネットにつながる」や「(12)目的地まで円滑に移動できる」等4項目で比率の伸びが大きく、重要視する人の割合が高まっている。反対に、「(41)基地等の問題対策が講じられている」や「(23)少年の非行や犯罪が少なくなる」等8項目で比率の減少幅が大きく、重要視する人の割合が低下している。【図表I-4、本調査73頁】
- 「非常に重要である」の回答比率を地域別にみると、北部以外の5地域では「(44)安心して家庭で水が使える」が第1位にあがっており、特に八重山で9割弱と高い。また、「(30)救急患者が適切な治療を受けられる」の割合は北部と八重山で高く、それぞれ第1、2位にあがっている。【本調査76頁】

図表I-4 生活の各側面に対する重要度「非常に重要である」比率

「非常に重要である」比率 上位10項目	平成30(今回調査)		平成27	平成24
	「非常に重要である」比率	順位	順位	順位
(44)安心して家庭で水が使える	80.1	1位	2位	1位
(35)犯罪がない安心なくらしの確保	76.3	2位	3位	3位
(30)救急患者が適切な治療を受けられる	75.5	3位	4位	5位
(25)老後に不安のない年金が得られる	74.5	4位	1位	2位
(29)良質な医療を受けられる	71.9	5位	7位	7位
(32)費用の心配なく、医療を受けられる	70.7	6位	5位	6位
(45)下水道が整備されている	69.1	7位	10位	10位
(23)少年の非行や犯罪が少なくなる	68.0	8位	5位	4位
(18)子供の育成環境が整っている	65.9	9位	14位	11位
(59)収入が着実に増える	65.2	10位	8位	12位

「非常に重要である」比率の増減が大きい項目(平成24年度調査との比較)	
平成24年度から5ポイント以上増加	平成24年度から5ポイント以上減少
(43)快適にインターネットにつながる(+13.2)	(41)基地等の問題対策が講じられている(▲9.7)
(12)目的地まで円滑に移動できる(+9.0)	(23)少年の非行や犯罪が少なくなる(▲8.4)
(11)公共交通機関が利用しやすい(+6.4)	(1)豊かな自然が保全されている(▲8.3)
(47)女性の社会活動参加、能力発揮(+5.4)	(24)高齢者が住み慣れた地域でくらす(▲8.1)
	(6)沖縄文化が保全・継承されている(▲7.1)
	(58)失業の不安がなく働ける(▲6.5)
	(40)商品等の苦情を処理するところがある(▲6.3)
	(25)老後に不安のない年金が得られる(▲6.0)

※平成27年度は74項目
平成24年度は72項目